

演題名	山羊に発生した角結膜炎		
発表者 氏名	遠藤純子	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>平成11年6月末、管内のA山羊牧場（繁殖40頭、肥育80頭、年間出荷150頭の一貫経営）で、眼球の白濁及び眼球周囲炎を起こしている山羊がみられ、隣接する山羊房に伝染している、と担当獣医師から家畜保健衛生所へ連絡があった。</p> <p>現地調査の結果、性別及び月齢に関係なく21頭の山羊に同様の症状が認められた。全身症状はなく、眼虫等寄生虫は確認されなかった。また、全山羊房に発生があったこと及び症状が牛角結膜炎に類似していることから細菌性疾患を疑った。</p> <p>5頭の眼球拭い液の細菌培養を実施したところ、全検体においてほぼ純培養に近いかたちで同一形状を示す細菌が104個以上分離された。同定の結果、分離された細菌は <i>Branhamella ovis</i> 及び <i>Staphylococcus sp.</i> であった。</p> <p>同定菌の薬剤感受性試験結果に基づく抗生物質の投与及び眼洗浄による治療を行い、さらに畜舎内の消毒を行った結果、4週間後には全頭が治癒し、その後の経過も良好であった。</p>			